

(短期研修)

令和5年度 林業アカデミーふくしま 短期研修実施内容

研修講座	研修の必要性	主な内容	主な対象者	○の対象者優先			実施時期	研修 日数	定員	開催場所
				市町 村	林業 事業	県職 員				
1 森林・林業の基礎	地域の森林・林業の中心的役割を担う市町村林務担当職員等を対象に、森林・林業に関する基礎的な知識を習得させ、担当業務を円滑に遂行できる職員を育成する。	森林・林業の基礎知識、優良林業事業体・木材市場等現地研修、森林・林業施策における市町村の役割 等	市町村林務担当職員等 (初任者レベル)	○	△	△	令和5年 4月24日 ～25日	2日	20名	林業研究センター ほか
2 森林整備事業の実務	森林・林業行政の推進を図るため、森林整備の実務に必要な知識を習得させ、市町村の森林・林業施策を適切に計画・実行できる職員を育成する。	森林整備事業の概要、ふくしま森林再生事業・広葉樹林再生事業、森林整備発注業務の実務、航空レーザー計測の林業への活用	市町村林務担当職員等 (実務担当者)	○		△	令和5年 5月11日	1日	20名	林業研究センター
3 森林計画制度	森林・林業行政の推進を図るため、森林計画制度の実務に必要な知識を習得させ、市町村の森林・林業施策を適切に計画・実行できる職員を育成する。	森林計画制度、市町村森林整備計画の実行管理（森林経営計画、林地台帳、伐採届、森林土地所有者届）、森林境界明確化 等	市町村林務担当職員等 (実務担当者)	○	△	△	令和5年 5月24日 ～25日	2日	20名	林業研究センター
4 森林土木事業の実務	森林土木事業の監督業務、積算業務等に必要な知識を習得させ、森林土木事業の実務ができる職員を育成する。	森林土木事業の概要（治山・路網） 林道施設災害復旧、監督業務におけるポイント、設計積算演習	・市町村林務担当職員等 (実務担当者)	○	△	※1 日目のみ 可	令和5年 5月29日 ～30日	2日	20名	林業研究センター
5 測量・森林調査の基礎	測量（コンパス測量、レベル測量、ポール測量）の現場実習等を通じて測量機器の取り扱い、測量手法、図面の作図などの実務及び樹木測定等の調査ができる職員を育成する。	測量・作図実習、森林調査実習	・市町村林務担当職員等 (実務担当者)	○	△	△	令和5年 6月6日～ 7日	2日	12名	林業研究センター
6 高性能林業機械の操作	ハーベスタシミュレーター機器を使用し、高性能林業機械の特性や安全な操作方法に関する基礎的な知識及び技術を習得させ、効率的かつ安全に作業が行える技術者を育成する。	高性能林業機械の特性、安全な作業方法、搭乗型VRシミュレーターを使用した模擬操作	林業従事者等		○		令和5年 7月10日 (AM・PM)	1日	6名 (AM 3名・ PM3名)	林業研究センター

令和6年度 林業アカデミーふくしま 短期研修実施計画及び研修内容

研修講座	研修の必要性	主な内容	主な対象者	○の対象者優先			実施時期	研修 日数	定員	開催場所
				市町 村	林業 事業	県職 員				
1 森林・林業の基礎	地域の森林・林業の中心的役割を担う市町村林務担当職員等を対象に、森林・林業に関する基礎的な知識を習得させ、担当業務を円滑に遂行できる職員を育成する。	森林・林業の基礎知識、優良林業事業体・木材市場等現地研修、森林・林業施策における市町村の役割 等	市町村林務担当職員等 (初任者レベル)	○	△	△	令和6年 4月24日 ～25日	2日	20名	林業研究センター ほか
2 森林整備事業の実務	森林・林業行政の推進を図るため、森林整備の実務に必要な知識を習得させ、市町村の森林・林業施策を適切に計画・実行できる職員を育成する。	森林整備事業の概要、ふくしま森林再生事業・広葉樹林再生事業、森林整備発注業務の実務、航空レーザー計測の林業への活用	市町村林務担当職員等 (実務担当者)	○		△	令和6年 5月10日	1日	20名	林業研究センター
3 森林計画制度	森林・林業行政の推進を図るため、森林計画制度の実務に必要な知識を習得させ、市町村の森林・林業施策を適切に計画・実行できる職員を育成する。	森林計画制度、市町村森林整備計画の実行管理（森林経営計画、林地台帳、伐採届、森林土地所有者届）、森林境界明確化 等	市町村林務担当職員等 (実務担当者)	○	△	△	令和6年 5月23日 ～24日	2日	20名	林業研究センター
4 森林土木事業の実務	森林土木事業の監督業務、積算業務等に必要な知識を習得させ、森林土木事業の実務ができる職員を育成する。	森林土木事業の概要（治山・路網） 林道施設災害復旧、監督業務におけるポイント、設計積算演習	・市町村林務担当職員等 (実務担当者)	○	△	※1 日目のみ 可	令和6年 5月29日 ～30日	2日	20名	林業研究センター
5 測量・森林調査の基礎	測量（コンパス測量、レベル測量、ポール測量）の現場実習等を通じて測量機器の取り扱い、測量手法、図面の作図などの実務及び樹木測定等の調査ができる職員を育成する。	測量・作図実習、森林調査実習	・市町村林務担当職員等 (実務担当者)	○	△	△	令和6年 6月6日～ 7日	2日	12名	林業研究センター
<p>ハーベスタシミュレーターの利用は随時受け付けることに変更。 なお、参加者が令和4年度2名、令和5年度2名（定員6名）と実績も低い。</p>										

令和5年度 林業アカデミーふくしま 短期研修実施内容

研修講座	研修の必要性	主な内容	主な対象者	○の対象者優先			実施時期	研修日数	定員	開催場所
				市町村	林業事業	県職員				
7 森林経営管理制度の実務 (市町村対象)	森林経営管理制度に関する事務を円滑に進めるため、意向調査の実施、経営管理権集積計画の作成、経営管理実施権配分計画の作成等を遂行する上で必要な知識を習得させ、適切かつ円滑に運用できる者を育成する。	森林経営計画制度・森林環境譲与税の概要、森林経営管理制度に係る市町村の事務、意向調査の実施計画作成、経営管理権集積計画作成、所有者探索業務	市町村林務担当職員 (実務担当者)	○	△	△	令和5年 7月18日 ～19日	2日	20名	林業研究センター
8 路網整備と作業システム(基礎)	路網整備と作業システムに関する基礎的な知識及び技術の習得により、地域における効率的な施業方法を計画・実行できる技術者を育成する。	路網整備の必要性、路網設計・作設方法・施工管理、路網と作業システム、ICT技術等	市町村林務担当職員 (実務担当者)及び林業従事者等	○	○	△	令和5年 7月24日 ～25日	2日	20名	林業研究センター
9 森林経営管理制度の実務 (林業事業体対象)	森林経営管理制度に関する事務を円滑に進めるため、意向調査の実施、経営管理権集積計画の作成、経営管理実施権配分計画の作成等を遂行する上で必要な知識を習得させ、適切かつ円滑に運用できる者を育成する。	森林経営計画制度・森林環境譲与税の概要、森林所有者への意向調査、経営管理実施権の配分	林業従事者等	△	○	△	令和5年 8月21日	1日	20名	林業研究センター
10 提案型集約化施業実践 ※森林施業プランナー協会認定 1次研修に該当(予定)	森林所有者に対する施業提案書の作成や提示、森林施業の集約化ができる、森林経営計画作成の中核を担う技術者を育成する。	提案型集約化施業の意義・進め方、目標林型と育林技術、集約化の実際、森林施業プラン作成、森林経営計画作成等	森林施業プランナーを目指す者等	△	○	△	令和5年 9月4日～ 7日	4日	12名	林業研究センター ほか
11 伐倒技術のチェックと改善	伐倒作業時の労働災害防止に向け、チェーンソーによる安全かつ正確な伐倒技術を有する技術者を育成する。	伐倒練習機による安全かつ正確な伐倒技術を身につけるための反復実習	林業従事者等 ※伐木等の業務に係る特別教育修了者	○			令和5年9月12日～ 15日 令和5年9月26日～ 28日	7日	3名	林業研究センター

令和6年度 林業アカデミーふくしま 短期研修実施計画及び研修内容

研修講座	研修の必要性	主な内容	主な対象者	○の対象者優先			実施時期	研修日数	定員	開催場所
				市町村	林業事業	県職員				
7 森林経営管理制度の実務 (市町村対象)	森林経営管理制度に関する事務を円滑に進めるため、意向調査の実施、経営管理権集積計画の作成、経営管理実施権配分計画の作成等を遂行する上で必要な知識を習得させ、適切かつ円滑に運用できる者を育成する。	森林経営計画制度・森林環境譲与税の概要、森林経営管理制度に係る市町村の事務、意向調査の実施計画作成、経営管理権集積計画作成、所有者探索業務	市町村林務担当職員 (実務担当者)	○	△	△	令和6年 9月19日 ～20日	2日	20名	林業研究センター
8 路網整備と作業システム	路網整備と作業システムに関する知識及び技術の習得により、地域における効率的な施業方法を計画・実行できる技術者を育成する。	効率的な森林施業システムの考え方、路網を活かした森林作業システムの検討実習、ICT等先端技術の活用、路網を活用した森林作業システムの現地検討	市町村林務担当職員 (実務担当者)及び林業従事者等	○	○	△	令和6年 7月24日 ～26日	3日	20名	林業研究センター
9 森林経営管理制度の実務 (林業事業体対象)	森林経営管理制度に関する事務を円滑に進めるため、意向調査の実施、経営管理権集積計画の作成、経営管理実施権配分計画の作成等を遂行する上で必要な知識を習得させ、適切かつ円滑に運用できる者を育成する。	森林経営計画制度・森林環境譲与税の概要、森林所有者への意向調査、経営管理実施権の配分	林業従事者等	△	○	△	令和6年 8月8日	1日	20名	林業研究センター
10 提案型集約化施業実践 ※森林施業プランナー協会認定 1次研修に該当(予定)	森林所有者に対する施業提案書の作成や提示、森林施業の集約化ができる、森林経営計画作成の中核を担う技術者を育成する。	提案型集約化施業の意義・進め方、目標林型と育林技術、集約化の実際、森林施業プラン作成、森林経営計画作成等	森林施業プランナーを目指す者等	△	○	△	令和6年 7月9日～ 10日	2日	12名	林業研究センター ほか
11 伐倒技術のチェックと改善	伐倒作業時の労働災害防止に向け、チェーンソーによる安全かつ正確な伐倒技術を有する技術者を育成する。	伐倒練習機による安全かつ正確な伐倒技術を身につけるための反復実習	林業従事者等 ※伐木等の業務に係る特別教育修了者	○			令和6年9月24日～ 27日 令和6年10月8日～ 10日	7日	3名	林業研究センター

林業事業体対象でかつ3日以上以上の研修を8月までに実施するため、市町村対象の当該研修を後半に移動した。

基礎と実践を統合して作業システムに関する講義や現地に適した路網整備を学ぶ時間を増やすために1日追加した。

県内の森林施業プランナーの取得率が上がっているため、当該研修受講者が令和4年度9名、令和5年度9名(定員12名)となっていることを踏まえ、プランナー取得を目指す方向への研修は3年に1回に変更し、それ以外の年はプランナー対象のフォローアップ研修にすることとした。

令和5年度 林業アカデミーふくしま 短期研修実施内容

研修講座	研修の必要性	主な内容	主な対象者	○の対象者優先			実施時期	研修 日数	定員	開催場所
				市町 村	林業 事業	県職 員				
12 最先端の林業技術	森林施業の効率化・省力化を可能にするため、ICT等の最新の林業技術を習得させる。	大型ドローンによる苗木運搬、3Dレーザースキャナを活用した森林調査、路網設計支援ソフトを使用した線形計画	市町村林務担当職員及び林業従事者等	○	○	△	令和5年10月31日	1日	15名	林業研究センター
13 路網整備と作業システム（実践）※緑の雇用OJT指導員資格取得研修に該当（予定）	現地に適合した路網整備と作業システムの構築に必要な知識及び技術を習得し、素材生産性の向上に向けた指導ができる技術者を育成する。	森林作業道作設の基礎、路網計画作成、森林作業道作設実習等	森林作業道開設に関する指導者を旨指す者		○		令和5年11月6日～9日	4日	10名	実習フィールド（予定）
14 森林・林業でのドローン活用	ドローン等技術の活用により、森林整備事業の実施に係る申請・検査の省力化、森林情報の管理体制の強化及び効率化を図るため、ドローンの操縦技術や撮影、画像解析等の技術を習得する。	森林・林業でのドローン活用事例、航空法等の関係法令、ドローンの操縦方法、ドローンの基礎操縦・飛行撮影、オルソ画像作成	市町村林務担当職員及び林業従事者等	○	○	△	令和5年11月28日～30日	3日	12名	林業研究センター
15 伐木技術の指導者養成	伐倒作業時の労働災害防止に向け、チェーンソーによる安全かつ正確な伐倒技術を有する指導者を育成する。	R4「安全な伐倒作業技術及びR5「伐倒技術のチェックと改善」の受講者を対象に、指導に必要な言語化等実習を行う。	林業従事者等 ※伐木等の業務に係る特別教育修了者、R4「安全な伐倒作業技術」及びR5「伐倒技術のチェックと改善」の受講者		○		令和6年1月16日～18日 令和6年1月30日～2月1日	6日	3名	林業研究センター

令和6年度 林業アカデミーふくしま 短期研修実施計画及び研修内容

研修講座	研修の必要性	主な内容	主な対象者	○の対象者優先			実施時期	研修 日数	定員	開催場所
				市町 村	林業 事業	県職 員				
12 最先端の林業技術	森林施業の効率化・省力化を可能にするため、ICT等の最新の林業技術を習得させる。	大型ドローンによる苗木運搬、3Dレーザースキャナを活用した森林調査、路網設計支援ソフトを使用した線形計画	市町村林務担当職員及び林業従事者等	○	○	△	令和6年8月22日～23日	2日	15名	林業研究センター
<p>参加者が令和4年度15名、令和5年度3名（定員15名）と大幅に減少したため、研修内容の見直しを行う。具体的には、路網設計支援ソフト（FRD）で1日、3Dレーザースキャナ（OWL）と大型ドローンで1日。それぞれ実際に利用している県内林業事業者も講師に呼び、より実践的な内容とする。</p> <p>2日に増やしたため、繁忙期を避けた。</p>										
<p>参加者が令和4年度1名、令和5年度2名（定員10名）と実績が低く、要望も少ないため、基礎と実践を統合する内容に変更した。</p>										
14 森林・林業でのドローン活用	ドローン等技術の活用により、森林整備事業の実施に係る申請・検査の省力化、森林情報の管理体制の強化及び効率化を図るため、ドローンの操縦技術や撮影、画像解析等の技術を習得する。	森林・林業でのドローン活用事例、航空法等の関係法令、ドローンの操縦方法、ドローンの基礎操縦・飛行撮影、オルソ画像作成	市町村林務担当職員及び林業従事者等	○	○	△	令和6年6月18日～21日	4日	12名	林業研究センター
<p>林業事業者対象でかつ3日以上研修を8月までに実施するため、6月に移動した。</p> <p>資格を取得できる研修にするため、1日増やした。</p> <p>「11 伐倒技術のチェックと改善」受講者を対象とした研修であり、研修を委託する業者と調整した結果次年度は当該研修を実施しないこととし、「11 伐倒技術のチェックと改善」の受講状況を踏まえて令和7年度以降の研修実施を検討する。</p>										

※「○の対象者優先」覧について：参加者多数の場合、○が記された対象者が優先的に参加となります。○または△の記載が無い講座には参加できませんのでご注意ください。